



中川 英彰 (平成3年度卒業) ●亀岡市産業観光部 農地整備課 国営事業係 係長

- ①亀岡市内で、国営ほ場整備事業が近畿農政局において進められているので、地元役員との調整や、行政機関との打合せ等を行っています。
- ②ひとつの現場を完成させることで、新たな形となって残ることにやりがいを感じます。
- ③在学中の実習で、測量、ブロック積、擁壁の施工等を行ったが、こういった経験をしたことが、自分が現場を担当するときにおおいに役立っています。
- ④今は、どんなことでもいいので、たくさんのことを学び、経験をして自分のものにしてください。また、在学中に寮生活をする中で、集団での行動が身に付きます。社会に出れば、この経験が必ず役立つと思います。自分のやりたいことを見つけてがんばってください。



大島 敬弘 (平成3年度卒業) ●京都府農林水産部農村振興課 主査

- ①京都府の農村振興関連事業等の企画・立案、調整をしています。
- ②農村地域が元気になる方法を幅広く考え具体化していくことができます。また、京都府のいろいろな地域のことを知ることができます。
- ③実際の現場では、実習と同じということはありませんが、その経験が基本として役に立っています。
- ④いつでもどこでも学ぶ気になれば学ぶことはあります。



齋藤 雅史 (平成10年度卒業) ●今井建設工業株式会社 工事主任

- ①高速道路のコンクリート橋脚の剥落防止工事で施工管理等、工事監督をしています。
- ②いろいろな現場に行けることが面白く感じます。私たちのくらしを支える高速道路の安全に、自分が関われることに達成感を感じています。
- ③実習などを通して、「土木」への具体的なイメージを持つことができました。
- ④同じコースで学ぶクラスメイトの絆は強いと思います。測量実習などは実際の現場で役に立つのでがんばってください。



倉地 進也 (平成11年度卒業) ●京都府立農芸高等学校 教諭

- ①京都府立農芸高校農業土木コースで教師をしています。
- ②農業土木について何も知らなかった生徒が専門知識と技術を身につけ巣立っていく。その成長を見るのがやりがいです。
- ③生徒に指導する立場になって、高校時代に厳しく指導してくださった先生の真意を実感しています。
- ④本校では机上の学びだけでなく、実習やコンテストを通じて自分の力を試す機会も豊富。チャレンジすることで、学ぶ楽しさを知り、確かな自信を身につけてください。



今西 佑介 (平成22年度卒業) ●内外エンジニアリング株式会社 技術1部 プロジェクトスタッフ

- ①農業土木コンサルタントとして、主に河川から汲み上げた水を水田などの農地に配分する施設であるポンプ場の設計や農業用水路のコンクリート劣化等の診断を行っています。
- ②自分の設計した施設により、営農が楽になったといった地元の方の声を聞くと、達成感があり、仕事にやりがいを感じます。同じ施設を設計する場合でも、場所により様々な条件があるので、いつも新鮮な気持ちで仕事出来る面白みがあります。
- ③農業土木コースでは農業土木に関する他、農作物を生産するための基礎的な知識も学べることは、技術者にとって重要なことであり、社会に出て実際に仕事をする上で広い視野を持って取り組むことが出来ました。
- ④高校、大学と農業土木を学び、今は念願の農業土木に携わる仕事に就いていますが、全ては高校時代に学んだことが基盤になっていると感じています。



阿部 敏之 (平成28年度卒業) ●日本大学理工学部土木工学科

- ①大学で土木工学の基礎を学んでいます。
- ②高校の時よりもレベルの上った授業を受けることが出来ることです。
- ③測量や製図を授業や実習で行っていたことで、大学での演習にも活かしています。
- ④農業土木コースで真剣に物事に取り組めば、きっとやりたいことや将来への希望が見つかります!!是非、前を向いて頑張ってください!!!



京都府立農芸高等学校と南丹広域振興局との連携 農業農村アプレントィスシッププログラムの取組



京都府立農芸高等学校 環境緑地科 農業土木コースのチャレンジ!



NNAP

[ナナップ]

農業農村アプレントィスシッププログラムとは

南丹管内には、多くの土地改良施設(頭首工・ため池や農道など)があります。また、現在も、ほ場整備工事、農道工事、ため池工事、頭首工改修工事などを実施中です。京都府立農芸高等学校環境緑地科の生徒をいわば「弟子」として、これらの施設や現場を教材として、地域の土地改良区の役員さんや京都府の農業土木技術職員等がやさしい「親方」となり、現場であるいは教室で、土地改良施設の仕組みや「ほんまもん」の技術を伝えるプログラムです。

「ほんまもん」の農業土木技術を修得し、農村地域活性化の担い手を育てます。



京都府立農芸高等学校は、京都府で唯一の農業の専門高校として、開校から35年にわたって農業や農業関連産業を中心に社会の幅広い分野に人材を輩出してきました。農業の6次産業化に期待が高まる現代、生産だけでなく、流通や販売も含め、農産物が消費者のもとに届くまでに関わる幅広い知識が求められています。本校では、農産バイオ科と環境緑地科の2学科を設置し、職業高校ならではの高い専門性とともにも多様な知識・教養を養い、社会自立の道を自ら切り開き、広く社会で活躍できる力の育成を目指しています。

中でも環境緑地科の農業土木コースは、農業土木に精通した技術者を育成するコースです。有史以来、農業を基幹産業としてきた日本。その国土を築き、支えてきたのは、農業土木技術に他なりません。生徒たちには専門的な知識・技術の習得とともに、農業土木技術が我が国の農業と農業を支える環境を守ってきた誇りと自信をもって学んでほしいと願っています。また地域と交わり、体験を通して学ぶのが本校の特長の一つです。農業土木の実際を目の当たりにし、本校の卒業生をはじめ地域で活躍する方々から教わることで、ここでの学びが社会に役立つ確かな力になることを実感できます。

私たちが生きる上で欠かせない「食」は、美しい水や空気、豊かな自然環境がなければ得ることはできません。高校時代に、そうした生命を支える農業の大切さとそれに関わる環境を守る意義を学ぶことは、人生の指針となり、糧となる。そう信じて教育しています。

京都府立農芸高等学校 校長 長谷川 清隆



■ NNAPの目指すもの

この取組を通じて、生徒達が地域の土地改良区や建設会社、府・市・町の現場職員から実際の土地改良施設の仕組みや管理方法、運転方法、設計や施工方法を現場で学び、地域とふれあうことで

- ①学ぶことへのやる気アップ
- ②自分達の地域を専門分野を通じて知ること、「地元」への愛着を高め、次世代の地域の担い手として求められる人材育成につなげます。



京都府立農芸高等学校 環境緑地科 農業土木コース



京都で農業土木を学べるのはここだけ!

毎日食卓にのぼるご飯や野菜。そうした「食」を担う農業を続けるには、田畑や水路、道路を整備したり、周囲の自然環境を守る農業土木が欠かせません。京都府でそうした農業土木を専門に学べるのは、本校の農業土木コースだけです。

本コースでは、農業土木はもちろん、土木全般に関わる専門知識・技術を身につけます。とりわけ総合実習や測量、環境デザインなどの実習科目や実験科目を豊富に用意。実体験を積みながら、測量士補、2級土木施工管理技術検定試験など、将来につながる多くの資格・検定を取得することもできます。また3年次の課題研究では、校内の環境整備に取り組みます。自分たちで課題を見つけ、解決する方法を考えたり、仲間と協力して取り組む経験を通じて、社会で求められる問題解決力やコミュニケーション力、協調性が育まれます。

さらに「地域に学ぶ」ことも重視。NNAPを通じ、地域の農業土木に関わる施設を見学したり、現場で測量を体験する中で農業土木の実態を知るとともに、仕事をまっとうする責任の重さも学びます。こうして農業土木分野はもちろん、幅広いフィールドで活躍できる確かな力を磨きます。



■ NNAPのこれまでの取組

学校から外に出て、普段は入れない土地改良施設や工事現場で、測量・設計や施工方法の実習、施設の仕組みや管理を地域で働いている人と一緒に学び、農業土木への関心を高め地域を知るとともに、実践に役立つ経験をしています。

